

数学

神戸大学[理系] (前期)

<全体分析>

試験時間 120 分

解答問題数 5 題

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

最近では数学Ⅲの微分法と積分法の問題が1題ずつ出題されることが多い。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

3が文系と共通であった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	微分法・積分法	数Ⅱ 数Ⅲ	(1)は積の微分法を用いる。	標準
2	積分法	数Ⅲ	x 軸のまわりの回転体の体積。	標準
3	場合の数	数A	(3)では、数の重複に注意し、(2)を利用する。	標準
4	微分法・極限	数Ⅲ	(2)は、はさみうちの原理を用いる。	標準
5	数列	数B	絶対値記号を含む2項間漸化式。 (1)は周期性を示し、(2)は n に関する数学的帰納法を用いる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年数学Ⅲの分野から少なくとも2題は出題されるから、強化する必要がある。
 数学Ⅲ以外では場合の数・確率、数列、整数がよく出題されており、注意したい。
 融合問題も多く、実践演習で思考力を強化したい。